

通信技術の未来を築く学生論文特集の発行にあたって



通信技術の未来を築く学生論文特集編集委員会

委員長 山里 敬也

学生教育の柱に研究を掲げ、研究を通して学生を真の研究者・技術者へと育てている教員は多いと推察する。研究は、最先端の内容あるいはこれまで知られていなかった内容を扱うため、そこに明快な答えがあるわけではない。やみくもに試行錯誤を繰り返しても答えにたどり着くことはない。では、どうすればよいのか。これこそが教員が学生に最も伝えたいことであり、学生教育の柱に研究を掲げる理由である。

新たな知見を見出すためには、問題をより深くとらえ、より根源的な存在に迫る必要がある。その上で、あくなき探求心と前例にとらわれない斬新なアイデアで挑むことで初めて成果が見えてくる。おぼろげに見えてきた成果は、研究会や国際会議で一流の研究者と議論することで熟成していく。そして最後は論文としてまとめることで、初めて研究が完成するのである。論文にする過程で一流の査読者及び編集委員のコメントにより磨きがかかるのはいうまでもない。

第3回となる「通信技術の未来を築く学生論文特集」では、第1回、第2回と同様に特集テーマとして技術分野を絞るのではなく、広く通信技術全般を対象とし、筆頭著者が学生となっている論文を募集することとした。今回も、これまで同様に和文論文誌編集委員全員

で本特集の編集委員を務めた。お陰様で、本特集へ投稿された論文数は、論文47編、レター7編である。厳正な査読の結果、最終的には論文21編、レター6編を採録することになった。また、今回もこれまで同様に優秀論文賞を2編選定した。

最後に、本特集を発行するにあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集員各位、並びに事務局の奥村様に深く感謝申し上げる。この特集企画が今後も継続的に実施され、多くの学生の皆さんが活躍できる舞台の一つとなることを期待している。

山里 敬也 (正員:シニア会員) 昭63 信州大・工・電子工卒。平2 同大大学院修士課程了。平5 慶大大学院博士課程了。工博。同年名大・工・電子情報・助手。平10 同大・情報メディア教育センター・助教授。平16 同大・エコトピア科学研究機構。平19 同大・エコトピア科学研究所・准教授。平22 同大教養教育院・教授。現在に至る。平9 より平10 まで、ドイツカイザースラウテルン大・客員研究員。センサネットワーク、変復調理論、可視光通信、eラーニングなどの研究に従事。情報理論とその応用学会、IEEE 各会員。平7 本会学術奨励賞受賞。平17 本会基礎・境界サイエティ特別功労賞受賞。平17 本会通信サイエティ活動功労賞受賞。IEEE Communications Society 2006 Best Tutorial Paper Award 受賞。

通信技術の未来を築く学生論文特集編集委員会

委員長	山里 敬也
副委員長	高橋 応明
委員	石井 望・石川 博康・石川 義裕・王建青 大島 正明・岡部 寿男・加藤 寧・可児 淳一 上山 憲昭・坂井 栄治・佐野 裕康・塩川 茂樹 瀬戸 一郎・鷹取 泰司・濱住 啓之・馬 杉正男 増田 悦夫・前山 利幸・松田 哲史・三浦 周 水野 修・宮下 裕章・宮田 英之・森山 敏文 柳 生智彦・山崎 憲一・吉原 貴之・和田 忠浩